

日時:2013年9月25日(水)17:30 – 20:00

場所:徳島大学常三島キャンパス KC 会場

司会:領域2代表 米田

書記:幹事 田村

出席者:米田、斉藤、安藤、田村、蓮尾、三好、岡本、永岡、東口、田中和夫先生(阪大)、井戸毅先生(核融合研)、難波慎一先生(広島大)

1. PLASMA2014 について

- 幹事学会である物理学会の領域2関係者の役割担当案について米田代表より説明があり、大枠として案の通り進めることとした。
- 前回のプラズマコンファレンス2011に対するプラズマ・核融合学会事務局の関わり方について、田中和夫先生より説明があった。
- 助成金の申請状況について担当の安藤前代表より説明があった。
- 各役割において、現在挙げられている仕事の内容について議論があった。
- 情報共有の仕方の一つとして、メーリングリストの活用について議論があった。

【以下、明日9月26日(木)の運営会議の議事内容について議論、決定した。】

2. 会議の運営方法について

- 米田代表より、領域2運営会議を単なる報告の場ではなく、インフォーマルな情報共有や議論の場としたいとの提案があり、それについて議論があった。今後、運営会議では、大枠としてはその方向性で運営会議を進めていく方針である旨を述べ、その承認を求めることとした。
- 招待講演やシンポジウムなどの提案も含めて、領域2の講演をいかに活性化させていくかについて、議論があった。
 - 座長の選定方法について議論があり、今後は幅広い年齢層から選定することとした。
 - 今大会より始まった企画セッションについて、現在の「極限非平衡」とは異なるテーマの企画も始められるよう宣伝を継続して行っていくことが確認された。

3. 学生優秀発表賞について

前回の2013年年次大会における受賞者を紹介することとした。

4. 日本物理学会若手奨励賞の領域2における授賞規定について

- 運営会議において以下の同授賞規定改定案について述べて、その承認を求めることとした。
 - 年齢制限を39歳以下に緩和する。またそれに伴い幾つかの表現を改訂する。
 - 不明瞭な表現を改善する。

5. 第8回(2014年)日本物理学会若手奨励賞の審査結果について

7名の応募者から、以下の2名を受賞候補者として推薦したい旨紹介することとした。

- 三木一弘(日本原子力研究開発機構)
- 梶田信(名古屋大学エコトピア科学研究所)

6. 領域名称変更について

領域名を数字から変更する件に関する現状について報告することとした。

7. 領域活性化予算について

幾つかの制約があるものの、日本物理学会が領域の活性化のために不可欠な会合に参加するための交通費を支給できるようになった件について報告することとした。

8. 2013年10月からの新役員体制について

以下の方々が、2013年9月で役員任期終了となる。

役員	三好隆博	広島大学
役員	田村直樹	核融合研
役員	蓮尾昌裕	京都大学

2013年10月からの役員体制(案)は以下の通り(~2014.3まで)。

領域代表	米田仁紀	電気通信大学
領域副代表	斉藤輝雄	福井大学
領域前代表	安藤 晃	東北大学

○ (2014.3まで領域委員、役員任期は2011.10~2014.9)

役員	出射 浩	九州大学
役員	永岡賢一	核融合研
役員	宮戸直亮	日本原子力研究開発機構

○ (2014.9まで領域委員、役員任期は2012.10~2015.9)

役員	岡本 敦	東北大学
役員	東口武史	宇都宮大学
役員	横井喜充	東京大学生産研

○ (2014.4から2016.3まで領域委員、役員任期は2013.10~2016.9)

役員	井戸 毅	核融合研
役員	成行泰裕	富山大学
役員	難波慎一	広島大学

- 次期(2014年4月から2015年3月)副代表について、九州大学の藤澤彰英先生を推薦したい旨紹介し、その承認を求めることとした。

9. 役員の役割分担について

大会(プログラム編集・会場設定)	岡本(正)、東口(副)、井戸、難波
シンポジウム・招待講演・企画講演	宮戸, 出射, 東口(正), 岡本(副)
3学会合同世話人	成行(正)、永岡、横井
ビーム領域との合同セッション担当	東口(正)、出射
表彰・若手奨励賞	斉藤(副代表)
学生優秀発表賞	開催時の代表、副代表、(事務担当:宮戸(正)、岡本、難波)
会計・予算	米田(代表)
学会連携(2年間)	田中、古川、菊池、安藤、永岡、東口
広報(ホームページ)	永岡(正)、横井(副)
メーリングリスト	井戸
編集(JPSJ)	斉藤(副代表)
役員会・運営会議幹事(書記)	岡本

10. 領域2に関するファクトデータの紹介について

- 領域2における講演数が年々減少傾向にあり、危機的状況にあることについて議論があった。運営会議では、このことについて、分野別の経年推移なども交えつつ紹介することとした。
- シンポジウムの傾向について、分野のバランスなどについて議論があり、運営会議ではこれについても紹介することとした。
- 招待講演の内容の傾向について議論があり、今後は領域2で活躍する若手研究者を主体に選定していきたい旨を紹介することとした。

11. 次回講演会に対する提案事項について

先のファクトデータの紹介時に、次回講演会に対して、静岡大の三重野哲先生から「微粒子プラズマの計測と制御」という題目のシンポジウム提案があった旨が紹介され、その講演者などについて議論があった。

12. JSPS 学術研究センターからの情報について

- 最近の科研費における採択数の傾向から、領域2への参加者の傾向などについて議論があった。
- また、若手研究者確保の観点から、学生優秀発表賞受賞者に対する各種賞への推薦を積極的に行っていききたい旨を紹介することとした。

13. その他

- APPC12/ASEPS の開催報告を菊池前々代表の代理で安藤前代表がすることとした。次回の APPC13 は2016年12月にオーストラリアで開催される旨紹介があった。
- 日本学術会議報告について、九大の伊藤早苗先生がされることを確認した。

以上